

	伸ばしたい力	現状の課題	改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> 文章を論理的に読み取る力 目的に応じて表現したり聞き取ったりする力 語彙力 	<ul style="list-style-type: none"> 文章を論理的に読み取ることを苦手とする生徒が多い。 伝えるべき情報を整理し順序立てて話す力、聞いたことから考えを深めたり質問したりする力が不十分である。 漢字を含めた語彙力が不足している生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章を論理的に読む学習活動を授業で繰り返す。 スピーチや少人数での話し合いなど、表現や交流の場面を多く設ける。 定期的以小テストを実施し、語彙力の定着を図る。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 基礎となる知識 資料を活用する力 	<ul style="list-style-type: none"> 社会的事象に対する興味や関心が低く、基礎的な事項の習得に課題が残る生徒がいる。 資料の読み取りに対する苦手意識があり、資料から読み取り習得した知識と結びつけて問題解決する力が身に付いていない生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 写真や動画資料などを提示し、生徒の社会的事象に対する興味・関心を高める。 定期的以小テストや単元テストを行い、基礎・基本の定着を図る。 ワークシートに統計資料や地図、史料を活用して既習事項を活用する課題を取り入れることで、生徒に多面的な理解を導くよう工夫する。
数学	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的な知識・技能 数学的な思考力・表現力 	<ul style="list-style-type: none"> 一つ一つの四則計算から四則の混じった計算に変わると間違いが増える。苦手意識をもってしまっている生徒がいる。 論理的な思考に対する苦手意識があり、数学的な表現を用いて、論理的に説明する力が身につけていない生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 計算練習を多く取り入れ、慣れていくようにするとともに、個別に教える機会を設定する。 指導内容を精選し、習熟度別コースに応じた指導方法を取り入れることによって演習時間や考える時間を多く確保する。 日常生活の中から題材を取り上げるとともに、学び合いなどの言語活動によって、学習意欲を高める。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 深く考えようとする力 科学的に表現する力 	<ul style="list-style-type: none"> 実験や観察には興味がある生徒が多いが、その結果をもとに深く考えたり、論理的に表現したりすることが苦手な生徒も少なくない。 自然や身近な現象などに対する興味・関心が低く、基礎的な内容の習得に時間がかかる生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験結果をもとにじっくり考察し、まとめ、それを表現する機会を計画的に設定する。 なるべく実物を観察させたり、アクティブボードで写真を見せたりしながら身近な材料を取り入れ、身の回りの現象に対する興味・関心を高める。
英語	<ul style="list-style-type: none"> 英語を使ってコミュニケーションをとろうとする力 コミュニケーションを円滑にする力 単語や文を正確に書く力 学習したことを活用して表現する力 	<ul style="list-style-type: none"> ジェスチャーを使って表現することにまだ抵抗がある生徒がいる。 英語を話すことは好きでも、書くことを苦手とする生徒がいる。定期テスト等の答案から、スペルミスをするなど、簡単なミスをする生徒が多い。 課題に真面目に取り組む生徒は多いが、学習したことを活用して場面や内容を考えながら自己表現やオリジナル文の作成に取り組むことができる生徒は少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶や呼び掛けの言葉を英語で元気よくできるように促す。英語でも日本語でもジェスチャーを交え、アイコンタクトをして気持ちのよい挨拶ができるようにする。 教室で使える簡単なClassroom Englishを教え、授業中に英語で相づちや質問ができるようにする。 定期的にスピーキングテストやインタビューテストを実施し、単語や英文を正確に書く力を高めるとともに、表現力を身に付けていく。 ワークの自己表現やEノートのオリジナル文作成に重点をおき、定期的な文法の添削を行うとともにそれぞれの生徒に合わせた助言をしていく。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱の基礎的な技能 思いや意図をもって表現しようとする態度 	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱の際、身体の使い方や呼吸法を意識できている生徒が増えてきている。しかし、まだ発声に生かすことや楽譜に書かれている音程を正確にとることができていない生徒が多い。 声を出すことに不安があり、伸び伸びと表現できない生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱をする際には楽譜を見る習慣の定着を図るとともに、楽譜から音程の動きを読み取る力を付けていく。 少人数で指導する機会を増やし、一人一人に助言をする。 声を出すことへの不安を減らすために、全体での発声練習を丁寧に繰り返して自身を付けるようにする。
美術	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な知識と技能 課題に応じた思考・判断・表現 美術に主体的に取り組む態度 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な技能に差があり、表現に苦勞している生徒がいる。 美術への関心はあるが、課題につなげられない生徒がいる。 年々見たり聞いたりしたことはあっても実際の物に触ったりふれあったことのない生徒が多くなっている。 立体感や質感を表すときに自身の経験にうまく繋がらず、表現できない生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 個に応じた指導を行い、それぞれに合った参考作品やテーマを提示する。 限られた時間の中で集中できるように環境を整えていく。 プリントやテストなどで短時間に表現できる力を養う。 各々の生徒の経験の情報の整理を行い、質感や立体感を明確にイメージできるよう声掛けを行う。
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な運動能力や基礎体力の向上 運動に関する知識、技能の向上と定着 身に付けた知識・技能を活用した思考力や表現力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 徒手体操の身体各部の動き、走る、投げる等の基本的な運動技能の習得が不十分な生徒がいる。 自己の動きを客観的にとらえることができず、自分の動きがどのようなになっているのかが理解できていない生徒が多い。 自己の課題を分析したり、課題解決のための方法を考たりするなどの思考活動が苦手な生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 示範を示したり個別対応によって解説を行ったりして、反復練習を経て、正しい、あるいは理想的な動きを習得できるようにする。 運動場面を動画撮影し、自己の動きを視覚的に確認することなどを通じて技能の改善、向上に努める。 毎回の授業でワークシートに振り返りを記入することを通して、自己の課題やその解決策を考えることができるようにする。
技・家	<ul style="list-style-type: none"> 技術的な「ものづくり」と社会との関連性や知識と技能 技術的な「ものづくり」の知識・技能と、それらを活用した思考・判断・表現 教科に主体的に取り組む態度 日常生活に必要な知識の定着 	<ul style="list-style-type: none"> 中学校に入学し、初めての教科ということもあり、今までの「ものづくり（図画工作）」との違いと切り替えに苦慮している生徒がいる。 技術的なものづくりが社会とどのように関係しているか（経済等）の理解度が浅い。 工具を使用した実技の経験がない生徒がいる。 生活に関わる基礎的な知識が身に付いていない生徒がいる。コロナ禍で、生徒が外出や食材の購入を控えていることも影響していると思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> 技術における「ものづくり」が意図的で計画的であることを多くの資料を用いて学習するとともに、今までの「ものづくり（図画工作）」とも比較し、理解を深める。 2学期から工具を使用した実習を安全をしっかりと指導しながら実施する。 DVDや食材などの実物を見ながら、具体的に思考し、基本的な知識を身に付けることができるように指導する。

	伸ばしたい力	現状の課題	改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> 文章を正しく読み取る力 根拠をもとに自分の意見を表現する力 語彙力 	<ul style="list-style-type: none"> 文章のつながりを意識しながら読むことに慣れていない。 パワーポイントを用いた資料づくりは上達したが、スピーチになると声量や姿勢など基本的な部分に改善の余地がある。 漢字の形を正しく覚えていない生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章を理論的に読む学習活動を授業で繰り返す。 発声や表情を確認しながら、相手に伝わる話し方を身に付けることができるようにする。 テスト後や書写の授業で、間違いやすい漢字を確認する。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 社会的な課題に対する関心 基本的な知識 社会的な思考力・判断力 学習したことを活用する力 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見を発言することが苦手な生徒がいる。また、人の意見を聞いて自分の考えを深めようとする生徒が少ない。 地図、資料、史料から多面的に状況に分析することを苦手とする生徒が多い。 自分なりの勉強法を見つけられていない生徒が多い。 学習した内容がどのような問題となって出題されるのかイメージできない生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 視聴覚教材や新聞記事等を提示し、興味関心を高めて、発言しやすい環境をつくる。 ワークシートに統計資料や地図、歴史的史料を効果的に取り入れ、多面的な理解を導く。 様々なパターンの勉強法を提示し、生徒自身にあった勉強法を見つけることができるようにする。 問題演習を授業で行い、得た知識を活用する対策を講じる。
数学	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な知識・技能 数学的な思考力、判断力、表現力 主体的に数学に取り組む態度 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な知識・技能を習得している生徒は多いが、複雑な内容になったときに、学んだ知識・技能を生かしきれない場合がある。 数学的に思考・判断をしたり、筋道を立てて説明をしたりすることに苦手意識をもっている生徒が多い。 決められた課題はよく取り組むが、学習したことを主体的に生活に生かそうとする意識は弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別授業の良さを生かし、個の力に応じたペースで基礎的な知識・技能がさまざまな場面で生かすことができるようにする。 教科書にある数学的思考や判断、説明を必要とする問題やその類似問題を繰り返し学ぶ中で数学的思考や判断の力、説明する力を培う。 導入問題や章の問題、数学のまど、などの問題を利用し、数学と生活との結び付きを考える場面をつくる。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 根拠をもとに多面的・多角的に思考する力 科学的に表現する力 	<ul style="list-style-type: none"> 実験や観察には興味・関心が高い生徒が多いが、実験・観察の結果について実験から得られるデータを根拠として自らの考察をすることに苦手意識をもつ生徒が多い。 正しい答えを求める意識が強く、試行錯誤して最適解を導こうとする意識が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> レポートを書くためのオリジナル教材「科学的表現の仕方」を活用して、科学的論述の基礎を身に付けることができるようにする。 自らの力で考察をして表現する学習の機会を積極的につくる。 個別実験の実施や自作教材等を活用することで、生徒一人一人の理解が深まる授業をデザインする。
英語	<ul style="list-style-type: none"> 英語を使って積極的にコミュニケーションをとろうとする力 自分の考えを伝えるための語彙力 学習したことを活用して表現する力 	<ul style="list-style-type: none"> 英語の授業でClassroom Englishを積極的に使おうとする生徒がとても多い。普段の生活でも、英語で話しかけると英語で返事をする生徒が増えている。 伝えたい思いはあるが、それを表現するための語彙力が必要である。 授業に真剣に臨み理解しようと努力している生徒は多いが、学んだことを活用して表現できるようになったという達成感などを実感している生徒はまだ多くはない。 	<ul style="list-style-type: none"> Classroom English、相づちや聞き返すときの表現、相手が言ったことを繰り返す方法などについて定期的に紹介し、コミュニケーションを円滑にする力にもつながるようにする。 教科書の単語を中心にスプリングコンテストを実施しているが、伝えたい思いを表現するために便利な単語も定期的に範囲として加え、語彙力向上へとつなげていく。 英文を添削し、それぞれの生徒に必要な助言を今まで以上に丁寧にしていく。その際、今後の英語の自主学习へとつながるように、自分で調べ、考えることができるようにする。 来年の受験対策につながるような長文問題を応用問題としてときどき取り入れ、粘り強く英文を読み解く力を高めていく。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱の基礎的な技能 思いや意図を表現する力 	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱には、ほとんどの生徒が意欲的に取り組んでいて、身体の使い方や発声はとても良いが、声量が足りないところも見受けられる。 楽曲の歌詞の内容から情景や心情を思い浮かべ、どのように表現したいかを言葉で表現することはできる。しかしその思いを歌唱で表現しきれない生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> お互いに歌声を聴き合う機会を増やし、声量が大きくなると更に良くなるということに自分たちで気付けるようにする。 どのように表現したいかを考えさせるだけでなく、その思いを表現するためにはどのような工夫や技能が必要であるのかを指導していく。
美術	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な知識と技能 課題に応じた思考・判断・表現 美術に主体的に取り組む態度 	<ul style="list-style-type: none"> 学習した知識や技能を実際の課題につなげて活用できない生徒がいる。 グラデーションや色の淡さに関心がある生徒が多い反面、物の立体感や質感が捉えられない生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 技能を課題につなげるプロセスを繰り返し行い、スムーズに活用できるように工夫する。 彫刻などの造形活動を通して、練習を行い質感や立体感を形にできるようにする。
保健	<ul style="list-style-type: none"> 基礎体力の向上 運動に関する知識、技能の向上と定着 身に付けた知識・技能を活用した思考力や表現力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 走る、投げる等の基本的な運動技能、柔軟性や持久力が不十分な生徒がいる。 自己の動きを客観的にとらえることができず、自分の動きがどのようになっているのかが理解できていない生徒が多い。 自己の課題を分析したり、課題解決のための方法を考えるなどの思考活動ができない生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元に応じた各種ストレッチ体操を取り入れ、柔軟性の向上を図る。個に応じた、達成可能な目標を設定し、達成感を次への向上意欲につなげ、運動経験を増やすようにする。 運動場を動画撮影し、自己の動きを視覚的に確認したり、生徒相互の観察と評価、教え合いをしたりして技能の改善、向上に努める。 毎回の授業でワークシートに振り返りを記入することで、自己の課題やその解決策を考えることができるようにする。
技家	<ul style="list-style-type: none"> エネルギー変換の技術の原則・法則の仕組みや知識・技能 エネルギー変換の工夫に対する思考・判断・表現 教科に主体的に学習する態度 	<ul style="list-style-type: none"> 履修した内容がどのように社会や環境に活用されているかを理解していない生徒がいる。 履修した内容を活用して思考し、その結果を上手く表現することに苦慮している。 既習事項であるミシンの基本的な技能が身に付いていない生徒が一部いる。 	<ul style="list-style-type: none"> エネルギーと社会・環境の関係を、多くの学習教材等を用いて分かりやすく解説し、ワークシートなどを使用して更に理解を深める。 タブレット端末等を活用し、自身の考え等を発表する場面を設ける。 授業や学習に主体的に取り組む態度を具体的な事例を挙げて説明する。 ミシン縫いを始める前にミシンの試し縫いをして確実に機能の復習をしてから作業を始めるように指導する。
	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活に必要な技能の定着 		

	伸ばしたい力	現状の課題	改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> 文章を正しく読み取る力 話す書くといった表現力 語彙力 	<ul style="list-style-type: none"> 論理的な思考を苦手とする生徒が多い。 伝えるべき情報を整理し、相手の立場に立って表現する力が不足している。 慣用句やことわざ、敬語などの知識が定着していない。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章を理論的に読む学習活動を繰り返し行う。 意見文の作成、スピーチなど構成力と推敲する力を高める。 定期的に小テストを実施する。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 資料を活用する力 深く考察する力 	<ul style="list-style-type: none"> 資料の読み取りに対する苦手意識があり、資料から読み取り習得した知識と結び付けて問題解決する力が身につけていない生徒がいる。 社会的事象に興味がある生徒が多いが、その結果をもとに深く考えたり、論理的に表現したりすることが苦手な生徒も少なくない。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートに統計資料や地図、史料を活用して既習事項を活用する課題を取り入れることで、生徒に多面的な理解を導くよう工夫する。 既習内容をもとにじっくり考察し、まとめて表現する機会を計画的につくる。
数学	<ul style="list-style-type: none"> 数量や図形に関する定義の理解、基礎的な知識、処理の技能 数学的、合理的な思考方法 習得した内容を活用する姿勢 思考プロセスを説明する表現力 	<ul style="list-style-type: none"> 問題の仕組みをとらえて、解決の流れや要点を示す表現力に課題のある生徒が多い。 単元の目的や、用語の定義よりも処理に努力が偏り気味で、単元間のつながりの理解を深める段階に至っていない。そのため、「計算」は得意とするが「論証」や「関数」といった数学的な思考に触れる内容を苦手とする生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業を再現できるように、流れや要点を工夫してノートが書けるよう授業の聴き方から指導する。 指導内容を精選し、習熟度にあった指導ペースを取り入れることにより、演習や見直す時間を確保する。 説明を簡潔にして問題演習を確保する。また、意見を出し合い、多様な発想から解決へとつながる問題例を与えて、発想を共有できるようにする。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 理科の見方・考え方を働かせて、論理的に思考する力 探究したことを科学的に表現する力 	<ul style="list-style-type: none"> 理科に興味・関心が高く、実験・観察に積極的に関わる生徒が多いが、実験・観察の結果を深く分析をしたり、科学的理論に迫ったりするような深い思考を伴う学習になると苦手意識をもつ生徒が多い。 自らの考えを的確に表現する力は伸長してきているが、表現の多様性に乏しい傾向がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別実験や自作教材の活用を通して実験・観察を重視することにより実感を伴う理解が進むようにしながら科学的な現象を理論的に理解することの面白さを掴ませる授業をデザインする。 オリジナル教材「科学的に考えるためのThinking Tool」を活用して、理科の見方・考え方を養わせる。
英語	<ul style="list-style-type: none"> 英語を使って積極的にコミュニケーションをとろうとする力 自分の考えを伝えるための語彙力 学習したことを活用して表現する力 長文を的確に読みとる力 	<ul style="list-style-type: none"> 英語への興味・関心が高い生徒が多く、積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢が多く見受けられる一方、苦手意識をもつ生徒も一定数いる。QA活動では流れのある受け答えが求められる。 自分の考えを表現する力は確実に伸びてきており、流れやまとまりに気をつけた文章は書けるようになってきているが、表現の多様性には欠ける傾向がある。 9割以上の生徒が暗唱に取り組んでいることは素晴らしいが、発音に留意し内容に合った表現で暗唱やスピーチに取り組んでいる生徒は多くはない。 長文読解には慣れてはきているが、限られた時間で情報を整理しながら読みとく力には差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 帯授業として、流れのあるQA活動や自己表現活動を取り入れ、流れのあるまとまった会話ができるようにしていく。 教科書の単語を中心としたスペリングコンテストや基本文を中心としたマシニングトークやQAリストでの練習及びテストは引き続き行うとともに、自己表現で使えるような例文や表現をワークシートに取り入れ、語彙増強を図っていく。 教科書の音声を家庭学習で活用するとともに、授業でも強弱・イントネーション・音のつながり・気持ちを意識した音読の練習をしていく。スピーチでも助言しながら内容にあった表現力向上を目指す。 引き続きオリジナル対話文を課題とし、添削する中でそれぞれの生徒に必要な助言を丁寧にしていく。また授業内で他の作品を読み合う交流の時間を多くとり、切磋琢磨できるようにしていく。 長文読解問題を解く中で、情報を整理し、キーとなる英文を見つけ出すことができるようにしていく。時間を区切り素早く読み解く練習をしていく。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な知識・技能の定着 音楽的な見方・考え方を働かせながら、主体的に取り組む態度 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽に興味・関心の高い生徒は多い。しかし、書くことをせずに理解したつもりになっている生徒がいる。 鑑賞では、感じたことや思ったことを表現することが苦手だと思っている生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的知識や既習曲の定着を図るため、ワークシート型プリント学習を定期的に行う。また、授業カードを通してものごとを客観的にとらえることができるようにしていく。 感じたことや思ったことを自由に表現することの大切さを伝え、書くことにより一層慣れるようにしていく。
美術	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な知識と技能 課題に応じた思考・判断・表現。 美術に主体的に取り組む態度 	<ul style="list-style-type: none"> 想像力や表現力があり、意欲的に活動を行っている生徒が多い。 片付けに雑さがあり、丁寧でない制作を行う生徒が見受けられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 他の生徒の作品を理解し、自分の作品に生かせられるよう、鑑賞を通してそれぞれの生徒の作品の良さをきめ細かに伝えていく。 自然の美しさを伝え、目互いに高めることができるように工夫する。 物の大切さを伝え、制作の丁寧さが重要であることを根気よく伝えていく。
保健	<ul style="list-style-type: none"> 知識・技能の定着 身に付けた知識・技能を活用した思考力、表現力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 保健体育に関心が高く積極的に活動する生徒が多い。グループ学習を通して、教え合う活動にも意欲的である。 自ら分析したものを的確に表現し、他者に伝えることは未だ苦手な生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動の成り立ちなどの理解を深めるために、ICT機器を積極的に取り入れながら、理解を深められるようにする。 ワークシートを活用し、適切な課題設定と課題解決のため指導を重点的に行い、グループでの活動場を増やししながら、自己の考えを他者に伝える場を増やす。
技家	<ul style="list-style-type: none"> 情報の技術（情報モラル、計測制御システム、プログラム等）に対する知識・技能 身の回りで使われている技術的な工夫に対するの思考・判断・表現 教科に対し主体的に学習する態度 日常生活に必要な技能の定着 	<ul style="list-style-type: none"> 知識・技能の習得に対して、考査に向けての「暗記」を主とした学習にだけ力を入れている生徒がいる。 与えた課題に対して履修した内容を活用して思考を巡らせ、自身のアイデアを創り出し、表現することに慣れていない。 手縫いで作る幼児のおもちゃ製作において基礎的な玉結び、玉どめ、半返し縫いが身に付いていない生徒が一部いる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業で得た知識や技能を実際に活用できるような教材を使用し「暗記」だけの知識や技能に偏らないようにする。 多くの学習教材等を利用し、学習内容に対しての理解を深めるとともに、タブレット端末等を利用して学習した内容を自分なりにまとめ発表する場を設ける。 手縫いのやり方について、苦手な生徒に対しては、具体的な写真を教室に掲示したり、担当教員が見本を見せたりするなど、丁寧に指導する。